国語科 学習指導案					
授業日	9 月 26 日(火) 3 限目	授業クラス	1年組A(28 名)	指導者	吉田 千夏

(1)本時の目標

対比関係を用いて論じられる文章について、図に整理することで構成や論理の展開を的確に捉えよう

(2)本時の展開(第6時/全 6 時間)

段階	学習活動	指導上の留意・配慮事項	評価内容・評価方法
導入(5分)	○授業の見通しを持つ	・本時の目標と活動内容を確認させる。	
展開(35分)	○対比の構成図を推敲する。 ・各班の代表者がホワイトボード(①)の図の説明を行い、意見の共有を行う。 ・意見の共有で得られた情報をもとに、各班のホワイトボード(①)の写真を参考にしながら、自班のホワイトボード(②)をまとめなおす。	・班の代表者を決め、ワールドカフェ方式で発表させる。 ・聞き役の生徒達は分かりやすかった所や質問等を付箋に記入し、発表者に渡す。 ・自班に戻ったら発表者が持ち帰った付箋を参考に、不足していた情報や分類が間違っていた箇所を加筆修正しホワイトボードにまとめ直させる。	【評価規準】〔主〕 ・応用活動に対して自分なりに取り組もうとしているか 【評価方法】 行動の観察 【評価規準】〔思・判・表〕 ・本文の記述内容を適切に分類し、対比の関係を捉えられている 【評価方法】 「記述の点検」ホワイトボード②
まとめ(10分)	○本時の学習を振り返る。 ・構成の違いや効果についてまとめる	・「水の東西」と「和の思想」の構成を比較し、構成の違いや効果について記述させる。	【評価規準】〔知〕 文章の構成の違いや効果について理解しているか 【評価方法】 「記述の点検」OPP シート

※資料イメージ(ホワイトボード)

(「和の思想」 長谷川櫂)

A	テーマ	B
日本	**間**	**西洋**
壁がない 障子やふすまで分けるだけ 季節や人数に応じて仕切りを変える 空間を自由に使う	空間(家)	壁で仕切る 部屋を分ける 鍵のある扉 空間を区切る
ex 琴・笛・鼓 音の絶え間がたくさんある 間を楽しむ	時間(音楽)	ex モーツァルト・クラシック 音に埋め尽くされている 間を嫌う
夫婦・家族・友人であっても間を取る 間で暮らしが円滑に	心理(人)	(フレンドリー) (間を必要としない)
=「間を使いこなす文化」	まとめ	=「間を使わない文化」

筆者の主張 **(日本の文化の特徴)**	日本の文化=「間を使いこなす文化」 間の働き=異質なもの同士の対立を和らげる → 和(日本文化)の実現

1. 単元名

対比関係を用いて論じられる文章の構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握しよう。

（「水の東西」 山崎正和 ）『標準現代の国語』 第一学習社

2. 単元の目標

(1)文, 話, 文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解する。〔知識及び技能〕(1)オ

(2)文章の種類を踏まえて, 内容や構成, 論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え, 要旨や要点を把握する。〔思考力・判断力・表現力〕C 読むこと(1)ア

(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに, 生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ, 我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち, 言葉を通して他者や社会に関わろうとする。〔学びに向かう力, 人間性等〕(3)

3. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。((1)オ)	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。(C(1)ア)	・情報と情報を対比させながら展開する評論を粘り強く読み、学習課題に沿って論理の展開を分析しようとしている。

4. 単元の指導と評価の計画

次	時	評価規準、評価方法	学習活動
一	1	【評価規準】〔主〕 ・学習課題に対し、自分なりの考えを書こうとしている 【評価方法】 ・「記述の点検」OPP シート	○学習の見通しを持つ ・目標と学習計画を確認し、学習の見通しを持つ。 ・「水の東西」本文を通読する。 ・学習課題(初発)について OPP シートに記入する
二	2	【評価規準】〔知〕 ・文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している 【評価方法】 「記述の点検」授業プリント① 【評価規準】〔知〕 ・「西洋」と対比することによって、「日本」の特徴がより明確になるという効果を理解している 【評価方法】 「記述の点検」OPP シート	○筆者の主張を捉える ・本文の内容を意味段落ごとにまとめる ○本文の構成と筆者の主張を整理する ・対比の構成と筆者の主張をもとに全体の構成を確かめる。 ○対比の効果を理解する ・学習課題(まとめ)について、構成の特徴と対比の効果についてまとめる。

	3	【評価規準】〔思・判・表〕 ・本文の記述内容を「日本」と「西洋」に適切に分類し、対比の関係を捉えられている 【評価方法】 「記述の点検」Jamboard	○対比の構成を捉え、シンキングツールで整理する ・Jamboard を使用し、本文から対比的に書かれている内容を抜き出しての付箋に書く。 ・シンキングツール(T チャート)を利用し、グループで話し合いながら分類・整理する。 ・グループで作成した Jamboard をクラス全体で共有する。(前半)
	4	【評価規準】〔主〕 ・各グループの jamboard の図を比較し、参考にする図を選び自分なりにまとめようとしている 【評価方法】 「記述の点検」授業プリント②	○対比の構成を捉え、シンキングツールで整理する ・グループで作成した Jamboard をクラス全体で共有する。(後半) ・各グループの jamboard の図を参考にしながら、個人で対比の関係を授業プリントの表(T チャート)にまとめる。
三	5	【評価規準】〔主〕 ・応用課題に自分なりに取り組もうとしている 【評価方法】 「行動の観察」 「記述の点検」ホワイトボード①(写真)	○対比の構成を捉え、シンキングツールでまとめる。 ・比較資料「和の思想」を読み、グループで話し合いながら対比の構成をホワイトボード(①)にTチャートを利用してまとめる。 ・完成したらホワイトボード(①)を撮影し、共有フォルダ(classroom)にアップロードする。
	6 本時	【評価規準】〔思・判・表〕 ・本文の記述内容を適切に分類し、対比の関係を捉えられている 【評価方法】 「記述の点検」ホワイトボード②(写真) 【評価規準】〔知〕 ・「水の東西」と「和の思想」の構成を比較し、その特徴や効果について考えを記述できている 【評価方法】 「記述の点検」OPP シート	○対比の構成を捉え、シンキングツールでまとめ直す。 ・各班の代表者がホワイトボード(①)の図の説明を行い、意見の共有を行う。 ・意見の共有で得られた情報をもとにホワイトボード(②)をまとめなおす。 ・ホワイトボード(②)を撮影し、共有フォルダ(classroom)にアップロードする。 ○構成の違いや良さを知る ・「水の東西」と「和の思想」の構成の違いや効果をまとめる

【資質能力育成のための ICT 活用】

活動区分と活用例

番号	活動区分(型・活動内容)	活用例	アプリケーション等	
①	提示型 ・・・ 資料提示 (スクリーン投影)	・映像・画像・音声資料の提示 ・デジタル教科書で構成を説明 ・学習活動の説明 ・プリントの投影	YouTube 写真・画像 Goodnotes ・ロイロノート	
②	見取り型 ・・・課題提出・資料共有	・宿題を出す(教員) ・宿題を提出(生徒) ・資料の共有 ・小テストの実施 ・アンケートの実施	Google classroom Google drive Gmail Google フォーム ロイロノート	
③	対話型 ・・・ 共同作業・話し合い	・意見の集約 ・意見の整理・分類 ・オンラインで対話・発表 ・投票 ・イメージマップ ・アイディア出し	Google Jamboard Slido AI テキストマイニング ZOOM Google スプレッドシート ロイロノート	
④	制作型 ・・・ 文章を書く・資料作成	・意見文・批評文・物語の続きを書く ・古典を脚本に書き換える ・スピーチの発表原稿を書く ・発表資料の作成	Microsoft Word Microsoft PowerPoint Google ドキュメント Google スライド ロイロノート	

単元計画と ICT 活用一覧

時	段階	学習活動	使用教材	ICT活用 (どのような用途で使用したか)	区分番号
1	基本	・学習計画の確認	OPP シート		
		・「水の東西」本文通読	教科書	デジタル教科書(構成の説明)	①
				映像資料(鹿おどし・エステ家の別荘)	①
		・学習課題(段落の内容・役割)	OPP シート	スクリーン投影(OPP シートの説明)	①
		・学習の振り返り	OPP シート	スクリーン投影(OPP シートの説明)	①
2		・段落内容の整理 ・筆者の主張の確認	教科書 授業プリント①		
		・学習課題(対比の効果)	OPP シート	スクリーン投影(OPP シートの説明)	①
		・学習の振り返り	OPP シート	スクリーン投影(OPP シートの説明)	①
3		・対比の構成をシンキングツールで整理(jamboard) ・全体共有(前半)	教科書 授業プリント② PC	Classroom(課題提出)	②
				Jamboard(作成)	③
				スクリーン投影(発表)	①
		・学習の振り返り	OPP シート	スクリーン投影(OPP シートの説明)	①
4		・全体共有(後半)	教科書 PC	スクリーン投影(解説)	①
				Jamboard(各班の T チャートの共有)	③
		・Tチャートの表に整理(プリント)	授業プリント②		
		・学習の振り返り	OPP シート	スクリーン投影(OPP シートの説明)	①
5	応用	・「和の思想」本文通読 ・対比の構成をシンキングツールで整理(ホワイトボード①) ・ホワイトボード撮影 ・共有フォルダにアップロード	授業プリント③ ホワイトボード マーカー PC	Jamboard(参考資料:「水の東西」各班の T チャート)	②
				iPad(ホワイトボード撮影)	
				Classroom(資料共有)	②
		・学習の振り返り	OPP シート	スクリーン投影(OPP シートの説明)	①
6		・各班で作成した資料の発表 ・意見交換(質問等)	PC ふせん ホワイトボードマーカー	スクリーン投影(学習活動の説明)	①
				Classroom(資料共有:ホワイトボード①)	②
				PC(発表)	①
		・共有した情報を元にまとめ直す(ホワイトボード②) ・ホワイトボード撮影 ・共有フォルダにアップロード		Classroom(参考資料:ホワイトボード①)	②
				iPad(ホワイトボード撮影)	
				Classroom(資料共有:ホワイトボード②)	②
		・学習課題(構成の違いや効果)	OPP シート	スクリーン投影(OPP シートの説明)	①
		・学習の振り返り	OPP シート	スクリーン投影(OPP シートの説明)	①

国語科学習指導案					
授業日	１１月７日(火)　３限目	授業クラス	２年Ｂ組（３８名）	指導者	濵砂　誠
単元名	文章の妥当性を吟味して、関連する資料を基に、内容を解釈しよう。 (「共同性の幻想」(菅野　仁))『標準論理国語』第一学習社				
単元の目標	〔知識及び技能〕 （１）言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 イ　論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章中の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。 エ　文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。 〔思考力、判断力、表現力等〕 Ｂ　読むこと （１）読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ウ　主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈すること。 〔学びに向かう力、人間性等〕 （３）言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				

具体的な評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・本文中の語句の使い方、また文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 （１）イエ	・「伝統的社会（ムラ的共同性）と現代社会（ネオ共同性）の共通点と相違点」及び「同調圧力から抜け出すための発想」について、文章の妥当性を吟味して、関連する資料を基に、内容を解釈している。 ※読(1)ウ	・「共同性の幻想」＝「ネオ共同性」の歪みと抜け出す方法について、積極的に話し合いに参加し、調べたことをもとに自分の考えや意見を伝え粘り強く意見をまとめようとしている。

単元計画			
次	時	評価規準と評価方法	学習活動
一	1	【評価規準】 ・本文中の語句の読みと意味について、正しく理解している。〔知〕 ・本文に出てきた「同調圧力」「共同性」「同質性」「共存性」などのキーワードを把握し、イメージすることができる。〔思〕 【評価方法】 授業プリントの確認 課題の入力の確認 行動の観察	①「共同性」と「幻想」に関するイメージを課題に入力し、ＡＩテキストマイニングで確認する。 ②本文全体を音読する。 ③本文全体をＡＩテキストマイニングにかけ、複数回繰り返されている言葉が論旨の把握に必要になることを意識する。 ④初読の感想、印象に残った言葉、よく分からなかった言葉を課題に入力する。 ⑤本文の語句に関する問題をプリントにて解き、グーグルクラスルームにアップされた模範解答を見て自己添削を行う。 ※①④はグーグルクラスルーム、①③はＡＩテキストマイニング、⑤は授業プリントの取り組み。

二	2	【評価規準】 ・班で協力しながら、「私たちの身の回りにある同調圧力」の具体例について挙げ、身近に感じ取ることができる。〔思〕〔主〕 【評価方法】 ジャムボードの入力の確認 授業プリントの確認 行動の観察	①初読の感想、印象に残った言葉、よく分からなかった言葉について、ＡＩテキストマイニングも併用して、ふりかえり学習を行う。 ②班で協力しながら、第一段落「同調圧力」の意味を確認し、「私たちの身の回りにある同調圧力」の具体例を考え、ジャムボードに付箋で入力する。 ③「Chat GPT」による「一般的な同調圧力の例」を参考として見、自分たちが考えた例を補う材料とする。（授業者が事前に確認したものを表示する。） ④第一段落の語句の読みや意味、本文の内容に関する問題を解き、グーグルクラスルームにアップされた模範解答を見て自己添削を行う。 ⑤第一段落の学びについて自己評価をする。 ※①②④はグーグルクラスルーム、①はＡＩテキストマイニング、③は Chat GPT、④⑤は授業プリントの取り組み。
	3	【評価規準】 ・班で協力しながら、「伝統的社会」の「ムラ的共同性」と「現代社会」の「ネオ共同性」を比較し、その共通点と相違点について把握している。〔思〕〔主〕 【評価方法】 ジャムボードの入力の確認 授業プリントの確認 行動の観察	①第一段落で出てきた「身近な同調圧力の例」について、前時のジャムボードでふりかえる。 ②第二段落に出てくる「伝統的社会」と「現代社会」における「共同性」の相違点と共通点及び事例について、班で話し合い、ジャムボードのＴチャートに入力する。 ③関連として、「リースマン　社会的性格の三類型」について、ジャムボードの表に入力する。 ④第二段落の語句の読みや意味、内容に関する問題を解き、グーグルクラスルームにアップされた模範解答を見て自己添削を行う。 ⑤第二段落の学びについて自己評価をする。 ※①②③④はグーグルクラスルーム、④⑤は授業プリントの取り組み。
	4	【評価基準】 ・班で協力しながら、「伝統的社会」と「現代社会」の「他者との関係のあり方」について比較し、精神面において「みんな同じ＝同質性」という共通点があることを理解している。〔思〕〔主〕 【評価方法】 ジャムボードの入力の確認 授業プリントの確認 行動の観察	①第二段落で出てきた「ムラ的共同性」と「ネオ共同性」の対比を前時の表でふりかえる。 ②「ムラ社会の成立」について、日本史の教員が行う日本史的観点からの解説を聞く。 ③第三段落に出てくる「伝統的社会」と「現代社会」における「他者との関係のあり方」について、班で協力して、ジャムボードの表に入力する。 ④「見たものがすべてそのままではなく、皆が同じように見えているわけではない」という生物学的観点から生物の教員が行う解説を聞く。 ⑤「みんな同じ」ということを重視する「同質性」のあり方に疑問を抱く。

			⑥第三段落の語句の読みや意味、内容に関する問題を解き、グーグルクラスルームにアップされた模範解答を見て自己添削を行う。 ⑦第三段落の学びについて自己評価をする。 ※①③⑥はグーグルクラスルーム、②④は教科横断の講話、⑥⑦は授業プリントの取り組み。
	5	【評価規準】 ・班で協力しながら、同調圧力から抜け出すための「同質性から併存性へ」という発想を理解する。〔思〕 【評価方法】 ジャムボードの入力の確認 授業プリントの確認 行動の観察	①第三段落で出てきた「伝統的社会」と「現代社会」の「他者との関係のあり方」について、「同質性」という共通点があることを前時の表でふりかえる。 ②第四段落に出てくる「同質性」と「併存性」について、班で協力してジャムボードの表に入力する。 ③第四段落の語句の読みや意味、内容に関する問題を解き、グーグルクラスルームにアップされた模範解答を見て自己添削を行う。 ④第四段落の学びについて自己評価をする。 ※②③はグーグルクラスルーム、③④は授業プリントの取り組み。
三	6	【評価基準】 ・班で協力しながら、「共同性の幻想」の学びを踏まえた上で、「併存性」の実現を目指す上での心構えや他者との関わり方（友達、恋人、親と子、先生と生徒など）を考え、意見の共有を行う。〔思〕〔主〕 【評価方法】 ジャムボード及び課題の入力の確認 行動の観察	①現代社会における「併存性」の実現ための心構えや他者との関わり方について、ジャムボードに付箋を貼り、班で意見をまとめる。 ②これまでの学習全体を、パワーポイントの構造図などでふりかえる。 ③話し合った内容をもとに、現代社会における「併存性」の実現について、課題に文章を入力する。 ※①②③すべてグーグルクラスルームの取り組み。

学習指導案					
授業日	１１月７日(火)　３限目	授業クラス	２年Ｂ組（３８名）	指導者	濵砂　誠

（１）本時の目標
伝統的社会と現代社会における「他者との関係」を整理し、「同質性」について考えよう。

（２）本時の展開（４／６）

段階	具体的な活動内容	指導上の留意・配慮事項	評価内容・評価方法
導入 ５分	○授業の見通しを持つ。	・前時の活動「ムラ的共同性」と「ネオ共同性」の対比をジャムボードでふりかえる。 ・本時の目標と活動内容を確認する。	

展開 40 分	○「ムラ社会の成立」について、江戸時代から現代に至るまでの歴史的背景について、日本史の教員が行う日本史的観点からの解説を聞く。 ○「伝統的社会」と「現代社会」における「他者との関係のあり方」について、「同質性」を踏まえて、班で話し合い、ジャムボードのＴチャートに入力する。（グーグルクラスルーム） ○各班の代表が入力内容を整理して説明し、自分の班と他の班の発表内容を比較し、「他者との関係の違い」について整理し、理解する。 ○「人の目に映る映像は上下左右が逆さまだが、脳で映像信号を正しい向きに戻す」「光受容細胞の違いによって、明るさや色合いは、人によって変わる」など、生物学的観点から生物の教員が行う解説を聞く。 ○「みんな同じ」ということを重視する「同質性」のあり方について考える。 ○授業プリント（第三段落の語句の読みや意味、内容に関する問題）を解く。 ○グーグルクラスルームにアップされた模範解答を見て自己添削を行う。	・日本史を担当する教員がスクリーンを使用し、「ムラ社会の成立」について、１０分程度の講話を行う。（可能であれば、生徒からの質問も受け付ける。） ・班の確認をし、生徒が協力しながら表を埋めていけるよう、適宜助言、観察を行う。 ・各班の入力したボードを前方のスクリーンに表示し、発表後は指導者が助言する。 ・生物を担当する教員が「皆が見ているものは同じか」というテーマで「目の構造」と「脳のしくみ」の生物学的視点から、１０分程度の講話を行う。（可能であれば、生徒からの質問を受け付ける。） ・「みんな同じ」という考え方は絶対ではないのかもしれないと疑問を抱かせる。 ・授業プリントを配付し、取り組ませるが、残り時間に応じて宿題とする。（自己添削についても、グーグルクラスルームにアップすることで、自宅でも対応可能にさせる。）	【評価規準】 ・班で協力しながら、「伝統的社会」と「現代社会」の「他者との関係のあり方」について比較し、精神面において「みんな同じ＝同質性」という共通点があることを理解している。 〔思・判・表〕〔主〕 【評価方法】 ・ジャムボードの入力の確認、授業プリントの確認、行動の観察
まとめ 5 分	○本時の学習を振り返る。 ○第三段落の学びについて自己評価をする。	・講話と表の内容に触れる。 ・第三段落の学びについて自己評価をさせる。	【評価方法】 ・授業プリント